

『警察春秋』とは何ぞ— 大正・昭和戦前期警察史の一齣—

HP 初出: 平成 24(2012)年 6 月 20 日(水)初稿作成

- ・本稿は、従前より試みている警察諸雑誌検討の一である¹。
- ・雑誌『警察春秋』は、大正末期からおそらく昭和初期にかけて刊行された民間刊行の警察雑誌であるが、具体的なことはほとんど判明していなかった。
- ・『警察春秋』なる雑誌の存在を初めて知ったのは、去る平成 21(2009)年 1 月末~2 月初めにうち 6 冊が「YAHOO! JAPAN オークション」(ヤフオク)に下記のように出品されていたのを、同オークション終了後にたまたま見た(平成 21 年 3 月 1 日閲覧、同 2 日には既に削除)。なお、「オークファン」中で「警察春秋」参照〈平成 24 年 6 月 20 日現在では削除〉。
(<http://aucfan.com/aucview/yahoo/n67050243/>)からであるが、この僅かな例示からしても、同誌は、検討すべき警察雑誌の一つであると思料された。

「YAHOO! JAPAN オークション 出品年不明、1 月 27 日~2 月 1 日 「大正期 ◆「警察春秋」6 冊◆思想犯罪事件風俗他」 落札価格: 1,000 円」
・ただし、当時国立国会図書館蔵書を検索するに所蔵誌はなく、また、nacsis webcat 検索でも所蔵機関は存在しないようであって、実物を見るに至らなかった。⇒なお、最近、国立国会図書館サーチで再検索しても発見できなかった。
・そこで、『警察春秋』とは何ぞやが気になり、同誌のことが記載されている可能性がある文献を二、三渉猟したところ、例えば、鈴木哲太郎²『警察夜話』(昭和書房、昭和 18 年 5 月 20 日刊)中の「あの時分のことなど」(152 頁以下)に、「民間に於ける自警³といふ格で「警察春秋」なるものを発行してみた島山汀果

¹ 本 HP 別稿「警察雑誌検討一斑(再訂稿)」参照。

(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/keisatsuzasshi.pdf>)

(HP 初載) 平成 21(2009)年 3 月 4 日初稿作成、平成 22(2010)年 10 月 14 日(木)改訂稿作成、平成 22(2010)年 12 月 7 日(火)再訂稿作成

² 鈴木哲太郎は、本『警察夜話』奥付では、昭和 18(1943)年 5 月時点で「東京市芝区愛宕警察署情報係主任」とある。同氏には、同じ警察関係のものとして、『警察春秋』(松華堂書店、昭和 15 年 10 月 16 日刊)があるが、それによれば、「大正 7(1918)年 11 月 9 日警視庁警察練習所に入り、警視庁巡査を拝命してからの警察生活二十有余年」(序文)、「警察官たる前地方の小さな新聞社に勤務」(2 頁)、「会計検査院の写字生」(40 頁)、「二十余年も前、茨城の水戸の新聞記者」(54 頁)等の経歴を有するとのことである。

³ 警視庁自警会発行の雑誌、大正 8(1919)年 8 月創刊、現在に至る。Nacsis webcat 参照。

山人⁴なる人がみた。その編輯ぶりはたしかに際立つたもので、いつも澁刺としてみて、形式に泥まず、嶄新なものならざれば採らず、奇警にして痛快なものだつた。しかしこの人、若くして病逝してしまつたのは惜しむべきことだつた。」(154頁)とあつて、注目すべきものであることが、まずは判明した。

・その後も、ネット検索の都度、『警察春秋』の出品には留意してきたが、漸く、先般、ヤフオク平成24(2012)年5月21~28日に2冊(大正14年7月号、同15年新年特大号)が出品されたことを知つたので、「大枚」ならぬ「小枚」をはたいて応札したところ、他にこのようなものに誰も関心なきためか、無事落札し得た。よつて、以下、購入両誌によつて判明したことを簡単に記載しておく。今後の『警察春秋』検討の一つのよすがとなれば幸甚である。

・大正14(1925)年7月号(教養説苑2輯 微涼珊々号) ⇒表紙 南技知一画伯のカラー絵入り、小型横長変形版、総頁40頁、奥付: 大正13年11月7日第三種郵便認可、大正14年6月10日印刷、大正14年6月15日発行、毎月1回15日発行、発行所 春秋社 東京丸ノ内有楽町3-1 電話銀座6224番 振替口座東京68573、発行編輯兼印刷人 島山喜平 東京市麴町区有楽町3-1、印刷所 川辺印刷所 東京市本郷区三組町81、定価 1部20銭 郵税5厘(1ヶ年分前金2円、半ヶ年分前金1円10銭、含郵税) 俳句課題 美好選、川柳課題 汀果選

・大正14(1925)年9月号 ⇒創刊満一周年との由 ⇒とすると、大正13(1924)年9月号が創刊号か?、前掲鈴木哲太郎『警察夜話』(昭和書房、昭和18年5月20日刊)の記載からして(「島山汀果山人」)、「川柳課題 汀果選 ⇒「汀果」はおそらく「発行編輯兼印刷人 島山喜平」のことか。

・大正15(1926)年新年特大号(第3巻第1号) ⇒表紙カラー絵入り、小型横長変形版、総頁40頁、奥付: 大正13年11月7日第三種郵便認可、大正14年12月10日印刷、大正14年12月15日発行、毎月1回15日発行、発行所 春秋社 東京丸ノ内有楽町3-1 電話銀座6224番 振替口座東京68573、発行編輯兼印刷人 島山喜平 東京市麴町区有楽町3-1、印刷所 川辺印刷所 東京市本郷区三組町81、定価 1部20銭 郵税5厘(1ヶ年分前金2円、半ヶ年分前金1円10銭、含郵税) 俳句課題 吳山人選、川柳課題 汀果

(以上)

本HP別稿「自警発行表(戦前期)」〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/jikei001.pdf>〉参照。

⁴ 遺憾ながら、現時点ではなお詳細不明。今後検討すべき人物である。御示教を乞いたい。